



令和2年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和元年12月9日

上場会社名 株式会社ストリーム 上場取引所 東
 コード番号 3071 URL http://www.stream-jp.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)齊藤 勝久
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)齊 向東 (TEL)03(6858)8189
 四半期報告書提出予定日 令和元年12月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和2年1月期第3四半期の連結業績(平成31年2月1日~令和元年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年1月期第3四半期	17,121	4.2	81	—	70	—	12	—
31年1月期第3四半期	16,438	5.7	△91	—	△94	—	△132	—

(注) 包括利益 2年1月期第3四半期 15百万円(—%) 31年1月期第3四半期 △128百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年1月期第3四半期	0 45	— —
31年1月期第3四半期	△4 86	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2年1月期第3四半期	5,049	1,741	33.1
31年1月期	5,157	1,725	32.1

(参考) 自己資本 2年1月期第3四半期 1,670百万円 31年1月期 1,657百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年1月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
2年1月期	— —	0 00	— —		
2年1月期(予想)				0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和2年1月期の連結業績予想(平成31年2月1日~令和2年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,320	11.9	205	—	191	—	94	—	3 47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2年1月期3Q	28,525,000株	31年1月期	28,525,000株
② 期末自己株式数	2年1月期3Q	1,236,500株	31年1月期	1,236,500株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2年1月期3Q	27,288,500株	31年1月期3Q	27,288,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成31年2月～令和元年10月)におけるわが国経済は、各種政策等の効果もあって、緩やかな回復基調が続いており、雇用・所得環境の改善が続く中で、個人消費も緩やかではありますが持ち直しているものの、消費者マインドは弱含みで推移しております。又、米国、中国をはじめとする海外の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響や消費税率引き上げ後の消費の減速懸念等により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループは、お客様のライフスタイル作りのサポートとして「より良い商品」「より良い価格」「より良いサービス」をモットーに、新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既存概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

①インターネット通販事業

当第3四半期連結累計期間における国内の家電小売業界は、消費税増税に伴う駆け込み需要の影響もあり、テレビ・洗濯機等が好調であった他、冷蔵庫・エアコンやパソコン等も堅調に展開し、業界全体では好調に推移しております。

このような状況の中、当社が出店する「楽天市場」「Yahoo!ショッピング」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上は、引き続きOA周辺機器や掃除機・洗濯機を中心に堅調に推移しました。又、パソコン、タブレット等のOA機器についても前年同四半期比で伸長しており、今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上確保に努めてまいります。

サイト別では、「Amazonマーケットプレイス」については、在庫保管・商品配送代行サービス「フルフィルメント by Amazon (FBA)」により業務効率の改善を図り、取扱いアイテムも広げて売上は好調に推移しています。又、令和元年10月に、ヤフー株式会社が運営する新オンラインショッピングモール「PayPayモール」に、当社インターネット通販サイト「ecカレント」及び「イーベスト」を出店しました。

一方、当社が運営するオリジナルサイト「ecカレント」では、WEB接客ツールのチャット機能により、お客様が希望する配送場所に応じた最短納期のスムーズな案内等が可能となり、在庫施策と連動させたプロモーションを展開し、設置サービスが必要な冷蔵庫、洗濯機等の大型家電の売上が大きく伸長し好調に推移しています。

又、令和元年12月に、オリジナルサイト「ecカレント」において、フリマアプリ「メルカリ」のスマホ決済サービス「メルペイ」のネット決済機能を導入しました。今回の導入により、キャッシュレス決済手段の多様化に対応することでお客様の利便性向上を図るばかりでなく、月間約1,450万人のアクティブユーザーを抱える「メルカリ」のユーザーが簡単にショッピングをお楽しみいただけるようになり、新たなユーザーへの購入機会の提供が可能になりました。なお、オリジナルサイト「イーベスト」においても今後導入を予定しています。

各カテゴリにおける前年同四半期比では家電13.0%増、パソコン18.8%増、周辺機器・デジタルカメラ0.7%減となりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,242百万円(前年同四半期比6.5%増)、営業利益134百万円(前年同四半期は123百万円の営業損失)となりました。

インターネット通販事業の売上・来店客数推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	来客数(千人)	受注件数(千件)	棚卸資産回転率 (回転/年換算)
当第3四半期連結累計期間	15,242	134	21,383	911	10.9
前第3四半期連結累計期間	14,309	△123	11,730	1,061	10.3

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第3四半期連結累計期間	7,809	1,500	4,886	1,046	15,242
前第3四半期連結累計期間	6,912	1,262	4,920	1,213	14,309

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

②ビューティー&ヘルスケア事業

株式会社エクソワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業では、平成26年12月の発売以来ロングセラーを続けている、先進の技術を美容分野に応用したヒト幹細胞培養液配合シリーズ「XLUXES」の売上は引き続き堅調に推移しております。又、令和元年8月には、より多くの方にお試しいただくために、同シリーズの新商品として「XLUXES スキンケア お試しセット」を発売しました。

平成30年9月にスタートした新時代のビジネスコミュニケーションスタイルに適したオートシップをベースとするバイナリーシステムを導入したビジネスプラン「エクソスーパード」も1周年を迎え、これまで堅調に推移しております。令和元年11月に、「エクソスーパード」会員向けに毎日元気・活力補給エナジードリンク「エクソソリューション バイタリティチャージ (X-SOLUTION VITALITY CHARGE)」を導入し、更なる展開を図ります。

売上高に関しましては、会員向け新ビジネスプランは好調を維持しましたが、第2四半期に続いて卸販売先の店舗展開等の影響もあり想定より売上の伸びが少なかったため、全体として前年同四半期を下回りました。一方、利益面に関しましては、原価及び広告宣伝費等の見直しによって当初の計画より上回りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,513百万円（前年同四半期比8.1%減）、営業利益75百万円（前年同四半期比12.5%増）となりました。

ビューティー&ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第3四半期連結累計期間	1,188	260	64	1,513
前第3四半期連結累計期間	1,336	231	78	1,646

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

③その他事業（「各種販売支援事業」、「オンライン・ゲーム事業」）

「各種販売支援事業」では、国内免税店20店舗において訪日観光客向け販売や株式会社エクソワン商品の会員向け販売のシステム・物流支援等を行っています。

平成31年1月～令和元年9月における訪日外客数は推計2,442万人で前年同期比4.0%増、消費総額は推計3兆6,189億円で過去最高を記録していますが、一方で直近の円高元安トレンドを背景とした客単価の下落もみられます。

「オンライン・ゲーム事業」では、共同企画・運営を行っているタイトルが、概ね計画通り売上を維持しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は463百万円（前年同四半期比33.2%減）、営業利益84百万円（前年同四半期比50.7%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は17,121百万円（前年同四半期比4.2%増）、営業利益81百万円（前年同四半期は91百万円の営業損失）、経常利益70百万円（前年同四半期は94百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は12百万円（前年同四半期は132百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ108百万円減少し、5,049百万円となりました。これは主に、商品256百万円増加、受取手形及び売掛金354百万円減少によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ124百万円減少し、3,307百万円となりました。これは主に、未払法人税等55百万円減少、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)66百万円減少によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ15百万円増加し、1,741百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益12百万円の計上によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ0百万円減少し、581百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、89百万円(前年同四半期は399百万円増加)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益55百万円、売上債権の減少額354百万円であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額255百万円、仕入債務の減少額23百万円、法人税等の支払額100百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、53百万円(前年同四半期は100百万円使用)となりました。収入の主な内訳は、差入保証金の回収による収入34百万円であり、支出の主な内訳は、無形固定資産の取得による支出83百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、36百万円(前年同四半期は419百万円使用)となりました。収入の内訳は、短期借入金の純増額34百万円であり、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出66百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和2年1月期の業績予想に関しましては、平成31年3月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和元年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	585,192	584,840
受取手形及び売掛金	1,315,828	961,786
商品	2,183,559	2,440,158
その他	113,535	174,661
流動資産合計	4,198,115	4,161,448
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	124,509	119,404
車両運搬具(純額)	5,286	7,753
工具、器具及び備品(純額)	38,051	28,131
土地	2,003	2,003
有形固定資産合計	169,850	157,292
無形固定資産		
ソフトウェア	336,205	305,010
その他	22,792	23,421
無形固定資産合計	358,998	328,431
投資その他の資産		
投資有価証券	12,557	12,509
出資金	270	270
差入保証金	398,494	368,605
その他	35,220	36,555
貸倒引当金	△15,876	△15,876
投資その他の資産合計	430,665	402,063
固定資産合計	959,514	887,787
資産合計	5,157,630	5,049,236

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和元年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,578,333	1,555,208
短期借入金	1,000,000	1,034,500
1年内返済予定の長期借入金	88,800	77,820
未払金	375,448	364,261
未払法人税等	66,118	10,618
賞与引当金	18,791	12,848
ポイント引当金	9,872	8,517
その他	134,967	137,501
流動負債合計	3,272,330	3,201,276
固定負債		
長期借入金	55,620	-
その他	104,250	106,721
固定負債合計	159,870	106,721
負債合計	3,432,201	3,307,997
純資産の部		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	876,888	876,888
利益剰余金	9,081	21,408
自己株式	△152,609	△152,609
株主資本合計	1,657,789	1,670,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	177	129
その他の包括利益累計額合計	177	129
非支配株主持分	67,460	70,991
純資産合計	1,725,428	1,741,238
負債純資産合計	5,157,630	5,049,236

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年10月31日)
売上高	16,438,574	17,121,330
売上原価	12,730,341	13,232,499
売上総利益	3,708,232	3,888,830
販売費及び一般管理費	3,799,300	3,807,513
営業利益又は営業損失(△)	△91,067	81,317
営業外収益		
受取利息	51	8
受取配当金	17	18
受取手数料	287	989
為替差益	5,925	1,094
その他	1,126	1,316
営業外収益合計	7,408	3,426
営業外費用		
支払利息	8,371	12,894
支払手数料	1,771	1,785
その他	945	-
営業外費用合計	11,087	14,680
経常利益又は経常損失(△)	△94,746	70,063
特別利益		
固定資産売却益	400	348
特別利益合計	400	348
特別損失		
固定資産除売却損	-	0
特別調査費用	-	11,005
和解金	-	3,900
特別損失合計	-	14,905
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△94,346	55,505
法人税等	34,227	39,647
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△128,574	15,858
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,014	3,531
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△132,588	12,327

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年10月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△128,574	15,858
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△113	△48
その他の包括利益合計	△113	△48
四半期包括利益	△128,687	15,810
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△132,702	12,278
非支配株主に係る四半期包括利益	4,014	3,531

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△94,346	55,505
減価償却費	142,947	136,559
特別調査費用	-	11,005
和解金	-	3,900
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,700	△5,943
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△7,604	△1,354
受取利息及び受取配当金	△68	△26
支払利息	8,371	12,894
為替差損益(△は益)	143	118
固定資産除売却損益(△は益)	△400	△348
売上債権の増減額(△は増加)	△56,737	354,041
たな卸資産の増減額(△は増加)	218,536	△255,615
仕入債務の増減額(△は減少)	216,818	△23,124
その他	20,213	△74,666
小計	456,574	212,945
利息及び配当金の受取額	721	26
利息の支払額	△8,082	△12,640
特別調査費用の支払額	-	△11,005
法人税等の支払額	△49,613	△100,074
営業活動によるキャッシュ・フロー	399,600	89,251
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△450	△450
有形固定資産の取得による支出	△1,686	△1,947
有形固定資産の売却による収入	1,694	2,777
無形固定資産の取得による支出	△91,185	△83,650
差入保証金の差入による支出	△39,541	△4,588
差入保証金の回収による収入	31,107	34,209
その他	48	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△100,013	△53,650
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△300,000	34,500
長期借入金の返済による支出	△116,600	△66,600
その他	△2,484	△4,302
財務活動によるキャッシュ・フロー	△419,084	△36,402
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△119,496	△801
現金及び現金同等物の期首残高	619,523	582,742
現金及び現金同等物の四半期末残高	500,026	581,940

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成30年2月1日至平成30年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティー&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,309,086	1,637,923	491,564	16,438,574	—	16,438,574
セグメント間の内部売上高又は振替高	293	8,975	201,569	210,838	△210,838	—
計	14,309,380	1,646,898	693,133	16,649,412	△210,838	16,438,574
セグメント利益又は損失(△)	△123,067	66,881	170,866	114,680	△205,747	△91,067

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△205,747千円は、セグメント間取引消去△277千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△205,469千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成31年2月1日至令和元年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティー&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,242,378	1,492,523	386,428	17,121,330	—	17,121,330
セグメント間の内部売上高又は振替高	562	21,063	76,607	98,232	△98,232	—
計	15,242,940	1,513,586	463,035	17,219,562	△98,232	17,121,330
セグメント利益	134,064	75,255	84,315	293,634	△212,317	81,317

(注) 1. セグメント利益の調整額△212,317千円は、セグメント間取引消去△6,194千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△206,123千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。